

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	福岡県	市町村名	福津市	大学名	
派遣日	令和 6 年 7 月 5 日 (金曜日) 14:00~15:00				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。派遣 / 遠隔				
派遣場所	オンライン				
アドバイザー氏名	横浜市立横浜吉田中学校 副校長 土屋 隆史 様				
相談者	福岡県福津市教育委員会				
相談内容	① 福津市の日本語指導の仕組みについて ・急増する外国人児童生徒への対応 ・日本語指導教員と支援員の役割について ② 日本語指導を受ける子どもたちの評価について ③ 中学生の学習について				
派遣者からの指導助言内容	①福津市の日本語指導の仕組みについて (福津市の仕組みについて) ・改善点としては、日本語指導担当教員の、役割の「児童生徒への教育活動」に、日本語指導・教科指導の指導・支援とした方がはっきりする。 ・日本語指導支援者の、児童への関わりについて、「学習支援」ではなく、「日本語学習支援」とした方がわかりやすい。 (日本語指導教員と支援員の考え方の差について) ・教員は進学に向けた授業と日本語指導が大事と考えている。 ・講師、支援者は日本語を教えたい。取り出したい。という相違があるのは当然 ・ボランティアについては、行政は予算が関係するため工夫が必要。 ・横浜市ではボランティアに、母語支援ボランティア(通訳)と母語学習ボランティア(学習)がいる →委員会が業務委託した交際交流協会に通訳を学校から依頼 →交際交流ラウンジに学校から学習支援を依頼 謝金は委員会から ・一般の先生方に日本語はできているようでも学習言語は難しいということを周知することが地域の日本語支援員とのつなぎにもなる ・校長研修などでも日本語指導を必要としている児童がどんなふうに困っていて、学校として居場所を作れているかなどを説明する。 →題は「子供たちは困っている」などとして、学校から配布される通知文を訳させたり、子供の日本語レベルに応じた文を多国語で読ませたりするなど →支援者からの情報を伝えることも大切 ・教室への入り込み(母語ができる支援員さんはほぼほぼいない)は、担任の指導の中なので取り出しでもなく可能。 ②評価について				

	・可能な限り資料をあつめ、生徒の力をみとることが大切である。 ・保護者への丁寧な説明が重要（通訳を入れるなど） ・評価項目等は、学校長判断で調整することもあるが慎重に ③中学生の学習について ・英語を使いたいと思うことは否定しない ・教室の中で友達とも会話させる。 ・取り出しの中で、「頑張ろうね」など励まし、本人の気持ちを前向きに。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	福津市では、急増する外国人児童生徒のための仕組みが整備途中の段階であり、日本語指導担当教員が行うこと、市が行うことが曖昧なところがありました。 そのことで、日本語指導教員のやり方や考え方と、支援員の考え方に違いが生じてしまっており、市が板挟みになるような事態になっていたため、この度、外国人アドバイザーの申請を行いました。 土屋先生のご助言を受け、互いに相違があることは当然だというお言葉に安堵いたしました。相違があることを十分にふまえた上で、今後福津市としての仕組みの整備を行っていきたいと考えます。 具体的な取組の方針としては、 ・教育委員会の役割の明確にした日本語指導体制の整備 ・支援員の役割の明確化（入り込み指導も積極的に行う方向で） ・福津市の支援員の在り方について検討 ・各学校の日本語指導担当者を集めた日本語指導研修会の内容の充実と、研修会の回数を増やす。 ・各学校の担当者を核として、一般の教員の理解を深めるための研修を各学校で実施。 を考えております。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。